

令和元年度活動報告



定山溪中学校の生徒が保護活動をしている三笠緑地（定山溪国有林）の
カタクリ・エゾエンゴサクなど

林野庁 北海道森林管理局

石狩地域森林ふれあい推進センター

当センターは、豊富な森林資源と多様な森林景観に恵まれた山岳林等にある定山溪国有林、都市近郊の丘陵森林である野幌国有林を主たる活動のフィールドとしています。

札幌市内を流れる豊平川の上流・源流部の定山溪国有林は、札幌市の水源の森として重要な役割を果たしています。また、森林環境学習の場として利用されるなど、市民とのかかわりが深い地域になっています。

水源の森に植える植栽用苗木を、市民の皆さんが作成し、水源の森と札幌のおいしい水との関わりを知っていただくことを目的に「札幌水源の森づくり2019」を開催しました。

札幌市立定山溪小学校・中学校では、定山溪の森林で植林活動、環境保全活動等を学ぶこととして「地域のもりから学ぶ森林づくり」に取り組みました。

さらに、平成16年の台風により約77haに及び風倒被害を受けた野幌森林公園において、「100年前の原始性が感じられる自然林」を目指した森林づくりを目標とした「野幌森林再生プロジェクト」を策定し、市民の皆さんと協働・連携した「団体型森林づくり」、「みんなで森林づくり」、「野幌森林づくり塾」を行いました（6月上旬から9月中旬まで、野幌森林公園及び周辺にヒグマが出没したことにより一部中止）。また、森林植生の変化、森林再生状況を把握するため「野幌自然環境モニタリング」を継続実施しています。

そのほか、様々な機関等からの要請に応じ、協力などの支援活動を行っています。

札幌水源の森づくり

札幌市の「水源の森」である定山溪国有林は、市民約190万人の生活を支える水道水の源として、おいしい水を育む重要な役割を果たしている森林です。札幌市・ボランティア団体等と連携し、多数の参加を得て、「札幌水源の森づくり2019」を開催し、水源の森へ植える植栽用苗木を作成し、札幌のおいしい水との関わりについて知っていただくイベント開催と、ボランティア団体・協力機関による現地植栽を行いました。

令和元年8月24日（土）市民参加による植栽用苗木（カミネッコ活用）づくり

札幌市の中心部、創成川公園・狸二条広場を会場に、札幌市と共同主催でボランティア団体等の協力を得てイベントを開催しました。

当日はさわやかな天候となり多数の参加があり、定山溪国有林の「水源の森」に植栽する再生段ボールできた「カミネッコ」（故 東三郎北大名誉教授の考案）を活用したトドマツ、ミズナラ、ヤチダモの植栽用苗木を300個作成しました。



開会式にはたくさんの参加者が集まりました



子供も大勢参加しました



イベント参加者と記念撮影

写真中央は小林建設局長（札幌市）、新島北海道森林管理局長



関係機関スタッフとゆるキャラ



作成した苗木 300個



暑い中、下刈作業は大変

令和元年7月10日（水）水源の森の下刈作業

毎年、イベントに参加した皆さんが作成した苗木は、定山溪の水源の森（定山溪ダム上流の国有林）に植栽していますが、植栽後の手入れとして、石狩森林管理署と協定を結んでいる「北方創森塾」と連携して下刈作業を実施しました。

令和元年9月28日（土）水源の森に苗木を植栽

8月24日に開催した「水源の森」イベントに参加した皆さんが作成した植栽用苗木を、水源の森にボランティア団体・協力機関の25名で植栽しました。

当日は秋晴れで、心地よい汗をかきながらの作業となり、300個の苗木を植栽しました。



さわやかな秋晴れとなりました



苗木運搬作業も大変



参加された皆さん、ご苦労様でした



苗木の植栽

地域のもりから学ぶ森林づくり

定山溪国有林において地域に根ざした取り組みとして、「地域のもりから学ぶ森林づくり」を実施しました。「身近な自然を見に行こう、保護しよう」等をテーマに、定山溪小学校（5・6年生）・中学校（全学年）を対象に4回の森林教室を行いました。また、中学校・NPO法人等の森づくり活動を地域の皆さんなどへ紹介する「森づくり活動発表会」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため中止としました。

令和元年5月9日（火）第1回 森林教室

定山溪の三笠緑地（国有林）には、カタクリ・エゾエンゴサクなどがたくさん咲いています。平成25年から中学校では三笠緑地の花の生育調査と保護活動をしており、平成29年からは小・中学校合同で森林教室を開催し、中学生が小学生を指導しながらカタクリ・エゾエンゴサクなどの生育調査を実施しました。また、中学生は保護活動をしている看板を設置しました。



生育調査



保護活動の看板設置



小学校・中学校合同で環境保全活動



広場の草刈り



トマツチップ散布

令和元年7月18日（木）第2回 森林教室

平成28年から中学校が実施している「夢の森づくり」に取り組みました。丸太いすのある広場や歩道の草刈り、除草対策として広場に道産トマツチップを散布、昨年設置した日時計の整備をしました。



日時計の整備

令和元年9月5日（木）第3回 森林教室

平成22年から中学校が実施している「森林を育てよう」に取り組みました。奥定山溪から幼苗で採取し、校庭で育苗した苗木（トドマツ、ミズナラ、イタヤカエデ等）を、カミネッコンを活用した植栽用苗木にし、再び奥定山溪の森林へ植栽しました。植栽後は、いままで植栽した苗木の生長調査、今回植栽した苗木をシカ食害から守る柵を設置しました。



カミネッコンを活用した植栽用苗木づくり



植栽してある苗木の生長調査



今回植栽した苗木をシカ食害等から守る柵を設置

令和元年9月6日（金）第4回 森林教室

小学校の5・6年生を対象に、中学校が取り組んでいる「夢の森づくり」活動地で植栽体験をしました。再生段ボールでできたカミネッコンを組み立て、メッセージやイラスト等を描き、カミネッコンにポット苗木と土を入れて植栽用苗木を作成し植栽しました。植栽後には乾燥防止として水を散布しました。



カミネッコンの組み立て



植栽用苗木の完成



植栽後には乾燥防止の水を散布

令和2年2月26日（水）「森づくり活動発表会」(中止)

定山溪中学校、NPO団体等の活動を紹介する「森づくり活動発表会」については、中学校は植林活動・環境保全活動等の取り組みを、国有林は森林・林業に関する技術開発とその普及・支援、森林とのふれあい、森林教室などの取り組みを紹介することとして開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため中止としました。

奥定山溪活動地のシカ食害対策等を観察

「森林を育てよう」をテーマに奥定山溪で実施している森林教室では、活動地は樹木が切り開かれた広場（土場跡地）であることから、平成24年からカミネッコンを活用した苗木の植栽に取り組んでいます。この地域にはシカが生息しており、植栽した苗木はシカの食害により生長が遅かったり枯れたりしていることから、シカの食害を防ぐために、平成28年から苗木の周囲に食害防止対策として柵を設置しています。

森林教室では柵を設置したことによる効果やシカの食害に強い樹種等について生徒と意見交換し、今回植栽した苗木は、柵を設置する箇所（針葉樹1グループ、広葉樹1グループ）と、柵を設置しない箇所（針葉樹1グループ、広葉樹1グループ）とし、今後、シカの食害や苗木の生育状況について観察することとしました。



シカの食害や柵の効果について意見交換



写真奥が柵を設置した苗木
手前が柵を設置しない苗木

野幌森林公園における野幌森林再生プロジェクト

平成16年9月の台風18号により被害を受けた野幌の森林を、100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりを目標とした「野幌森林再生プロジェクト」を策定し、平成17年度から各種取り組みを実施しています。NPO団体等広く皆さんに参加を呼びかけ、野幌の豊かな自然のすばらしさ、森林に関する理解の醸成や参加する皆さんとの協働による森林づくりに取り組んでいます。

団体型の^{もり}森林づくり

石狩森林管理署と協定を締結しているNPO団体、大学、企業等が風倒被害跡地に植栽をし、その後の保育、生長調査等を継続的に取り組んでいます。団体等の皆さんに、下草刈り等の現地作業を支援しています。

なお、今年度は6月上旬に野幌森林公園及び周辺にヒグマが出没し、安全対策として入林を控えたため下草刈りは実施できませんでしたが、ヒグマが捕獲された10月以降に生長調査等を実施しています。



参考 平成30年度の実施状況
シーズネット下刈作業

令和2年2月14日（金）野幌森林再生活動連絡会

北海道森林管理局研修室第1教室において、「団体型森林づくり」として石狩森林管理署と協定を締結しているNPO団体等、石狩森林管理署、野幌森林公園を管理している北海道博物館、公園内の道有林を管理している空知総合振興局森林室からも出席して活動連絡会を開催しました。

活動連絡会では、各団体の今年度の活動実績と次年度の活動予定についての報告、当センターから活動にあたっての連絡事項、野幌森林公園に関する情報提供、石狩森林管理署、空知総合振興局森林室からは平成30年9月の台風による風倒木の処理状況等、北海道博物館からはヒグマの駆除についての説明があり、その後は、森林再生活動に関する意見交換等を行いました。



各団体との意見交換



野幌森林公園に関する情報提供

みんなで森林づくり

団体や個人等、皆さんに広く誰でも参加していただき、風倒被害跡地に植栽した箇所の下刈作業に取り組んでいます。

令和元年6月26日（水）みんなで森林づくり（中止）

毎年、北海道博物館近くの国有林で実施しており、今年も公募で募った皆さんと、NPO法人北広島森林ボランティア・メイプルの安全指導のもと、下刈作業を行うこととして参加者を募集し準備をしていましたが、6月上旬にヒグマが出没したため、作業は中止としました。



参考 平成30年度の実施状況
メイプルによる安全指導



参考 平成30年度の実施状況
暑い中で防蜂網を着用しての下刈作業

野幌森林づくり塾

森林づくりに関する知識の習得と森林づくり体験をしながら森林と人とのかかわり等についての理解を深め、将来的には自主的なボランティア活動の展開につながることを期待した、森林づくり塾を開催しました。

令和元年6月13日（木）第1回 野幌森林づくり塾

北海道立総合研究機構環境科学研究センター 生物多様性保全グループ 研究主幹の西川洋子氏を講師に迎え開催しました。「野幌の森と光の物語」をテーマに、光の違い（明るさ）が生み出す多様な林床植生や野幌森林公園で見られるランの花について説明され、有意義な講話となりました。

午後からは現地実習を予定していましたが、ヒグマが出没したため、現地実習は中止としました。



講師の西川氏



熱心に説明を聞く塾生の皆さん



野幌森林公園で見られるランの仲間

令和元年10月5日（土）第2回 野幌森林づくり塾（中止）

「森林づくりを体験しよう！」をテーマに、野幌森林公園内の人工林で枝打作業体験を予定していましたが、ヒグマが出没したため中止としました。

令和2年1月下旬～2月上旬開催予定 第3回 野幌森林づくり塾（中止）

「風倒木の処理について」をテーマに、高性能林業機械による伐採・搬出状況の見学を予定していましたが、適地が見当たらないことから中止としました。



参考 中央線の風倒木の状況



参考 46へ林小班の風倒木の状況

野幌自然環境モニタリング調査

野幌森林再生プロジェクトの大きな柱として、平成18年から、風倒被害後の森林植生の変化、森林再生状況を把握するために、学識経験者による「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置しています。①森林植生、②歩行性甲虫、③菌類、④野生動物の4項目についてモニタリング調査を実施し、森林の回復度の検証や野生動物の森林への影響について検討しています。なお、モニタリング調査については平成31年度（令和元年度）を最終調査とし、各委員から調査結果の最終報告がされました。（最終報告書の内容は当センターHPに掲載）

令和元年5月8日（水）「野幌自然環境モニタリング検討会」

モニタリング調査については、今年度の調査が最終であることから、年度当初の5月上旬に最終報告に向けての調査や取りまとめについて検討会を行いました。



モニタリング検討会

令和元年10月15日（火）「野幌自然環境モニタリング検討会（現地等）」

森林再生活動を行っている現地において、再生状況の把握と平成30年9月の台風21号による風倒被害の状況を確認し、その後、今年度の調査状況や報告書作成等について検討会を行いました。



現地での検討

令和2年2月13日（木）「野幌自然環境モニタリング検討会」

モニタリング調査の結果及び最終報告に向けて検討会を行いました。



最終報告書作成に向けた検討



パワーポイントによる調査状況の説明

野生動物調査については当センターで実施しており、公園内の12箇所に6月・9月の各4週間、自動撮影カメラを設置し、撮影データを解析してモニタリング調査に活用しています。

次の写真は、今年度の調査で撮影した野生動物です。



コウモリ
6月6日 00:23撮影



キツネ
6月10日 20:02撮影



ユキウサギ
6月15日 19:35撮影



アライグマ
6月17日 21:10撮影



クロテン
6月24日 00:42撮影



ネコ
6月28日 03:22撮影



タヌキ
9月9日 22:31撮影



エゾシカ
9月12日 18:08撮影

イベント、森林環境教育、試験研究機関、団体等へ協力

当センターでは、森林管理局のイベントへの協力、インターンシップへの対応、石狩森林管理署の森林教室への協力等を行いました。また、関係機関や試験研究機関、ボランティア団体への協力等を行いました。

令和元年10月19日（土）「北海道植樹祭・育樹祭」

北海道・北海道森林管理局などが主催となって、苫小牧市の苫東・和みの森（道有林）で開催された「第70回北海道植樹祭・育樹祭」にスタッフとして協力しました。

当日は雨模様でしたが多数の参加があり、「木製コースターづくり」のブースには、子供たちが木材の感触を確かめながら輪切りされたコースターに絵など描いていました。また、作成したコースターはプレゼントしました。



多くの子供が参加しました



木材の感触を確かめながら描いていました

令和元年8月19日（月）～ 8月23日（金）インターンシップ

北海道森林管理局では、学生が森林管理局の実際の行政業務に接することにより、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として、インターンシップを実施しています。今年度は3名を、森林管理局、石狩森林管理署及び当センターで受け入れ、森林管理局の組織、石狩森林管理署・石狩ふれあいセンターの概要、野生動物調査、生産、治山、森林ふれあい、試験地調査等幅広い分野の業務を体験しました。学生は熱心に説明を聞き、現場でもメモを取りレポートを取りまとめ、森林管理局の業務内容に興味を持ったようです。



ふれあいセンターの概要説明



野生動物調査の自動撮影カメラ設置



生産現場での丸太の採材



森林教室で植栽した箇所シカ食害対策



水源の森植栽地での歩道草刈り



試験地での立木調査

令和元年5月23日（木）森林教室（江別市立対雁小学校）

石狩振興局森林室が江別市立対雁小学校の5年生を対象に実施している森林教室へ、石狩森林管理署とともに協力しました。

実施場所は江別市の市有地（防風林）で、胸高直径と樹高測定、丸太切り、フィールドビンゴなどを実施し、児童は森林に関するさまざまな体験をしました。



集合は班ごとに整列



丸太切りは押さえる児童も切る児童も大変

令和元年6月25日（火）森林教室（千歳市立泉沢小学校）

石狩森林管理署と協定を結んでいる「かがやきの森」で、千歳市立泉沢小学校の児童が森林教室を実施しており協力しました。

5年生は植栽体験とフィールドビンゴ、6年生はカミネッコンを活用した植栽体験をし、児童の皆さんは、森林教室の体験を通じて、森林の役割や大切さについて学び考える機会になっています。



5年生 植栽体験



6年生 カミネッコンを組み立てて植栽

令和元年7月27日（土）森と湖とダムに親しむまつり

「森と湖とダムに親しむまつり」（主催：森と湖とダムに親しむまつり実行委員会（定山溪観光協会、定山溪連合町内会等）が定山溪ダム下流園地で開催され、「木製コースターづくり」のブースを設けてイベントに協力しました。天候が良かったこともあり多数の子供が参加し、輪切りのコースターに絵などを描いて、木材の感触を確かめていました。また、作成したコースターはプレゼントしました。



家族で参加



友達とコースターづくり

令和元年5月31日（月）10月2日（水）サルメンエビネ調査

野幌森林公園の国有林に生育している希少種のサルメンエビネは、生態について不明な部分もあり、平成22年から北海道立総合研究機構環境科学研究センターが、春の開花調査、秋の結実・葉の測定調査の研究を続けており、その活動に協力しています。



開花状況の調査（春）



開花数を数える（春）



今年も綺麗に咲きました（春）



葉の測定調査（秋）



実が付いている（秋）

令和元年6月27日（木）オオハンゴンソウ抜き取り（中止）

野幌森林公園には、特定外来植物のオオハンゴンソウが繁茂しており、北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の抜き取り作業に、石狩森林管理署（野幌森林事務所）とともに毎年参加していますが、今年度はヒグマが出没したため中止となりました。



参考 平成30年度の実施状況
抜き取り作業



参考 平成30年度の実施状況
根切り作業

トピック『野幌森林公園及び周辺にヒグマ出没』

6月10日22:50頃、野幌森林公園南側の東7号線（立命館慶祥中・高等学校付近）でヒグマの目撃情報があり、6月11日の朝には登満別周辺及び志分別線でフンが確認され、17:00頃には、酪農学園大学裏手の森林に実習で設置している自動撮影カメラに撮影された。

野幌森林公園（以下「公園」という。）で目撃されたのは、1941年（昭和16年）以来78年ぶりであり、安全対策として北海道博物館及び江別市が、公園内に入ることを控えるよう主要な場所に注意喚起の看板を設置した。

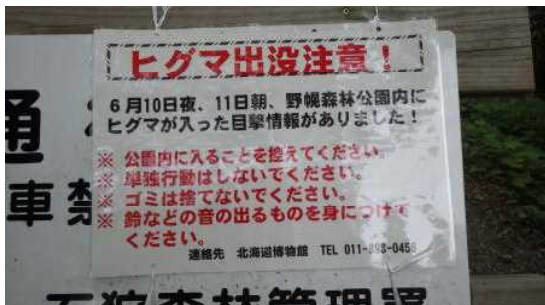
6月12日以降も公園及び周辺で目撃が複数確認され、7月3日14:10頃には林内を巡視していた石狩森林管理署野幌首席森林官も、登満別園地から南約600m付近で目撃した。

江別市は、公園南側の東7号線沿いのハスカップ農園で、ハスカップを食べられる被害が発生し、被害拡大防止・人的被害未然防止のために、7月11日私有地に捕獲用の箱罠を設置した。また、北広島市西の里周辺でも目撃されていたことから、北広島市も西の里に箱罠を設置（設置日は不明）した。

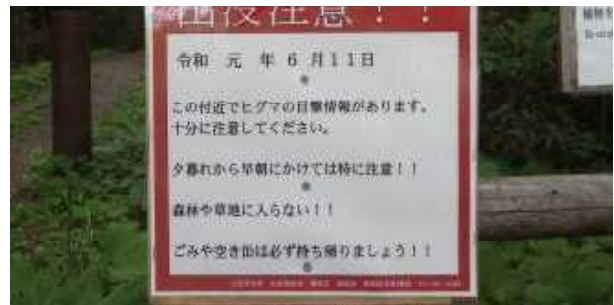
北広島市が設置していた箱罠に、9月5日捕獲され遺伝子を分析した結果、9月13日北海道博物館から「北広島市において捕獲されたヒグマは、6月10日以降に公園及び周辺に出没していたヒグマと同一個体である」と発表された。

詳細については、北海道博物館HP、江別市HP、北広島市HPに掲載されている。

なお、当センターが野生動物調査のために設置している自動撮影カメラにも、6月23日22:22にヒグマが撮影された。



入林者への注意喚起の看板（北海道博物館）



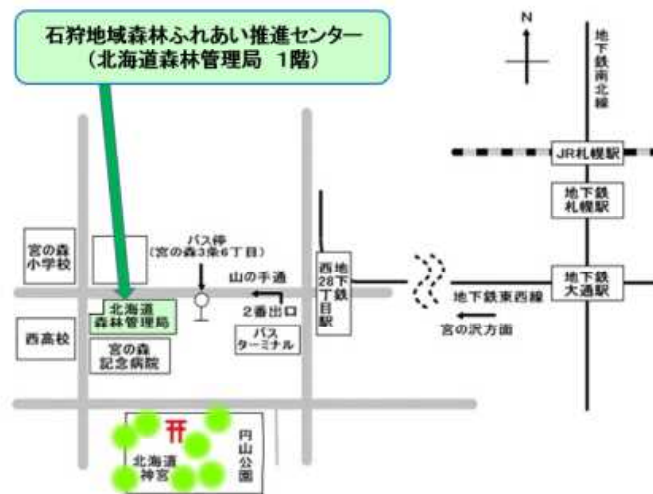
入林者への注意喚起の看板（江別市）



自動撮影カメラに撮影されたヒグマ（6月23日22:22）

右側にヒグマの顔部分が撮影されている

案内図



お問い合わせはこちらまで

林野庁 北海道森林管理局 石狩地域森林ふれあい推進センター
064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
TEL 011-622-5114 FAX 011-805-0201
ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/
E-mail h_ishikari_f@maff.go.jp